〔論文〕

保育士養成課程における英語授業の役割

―学生の英語学習に関する意識調査を踏まえて―

杉　本　孝　美
Takami Sugimoto

大阪総合保育大学
児童保育学部

保育士養成課程における基礎科目「英語」の授業の役割について考察する。本来、基礎科目の「英語」においては、学生が今まで習ってきた英語を基礎にその復習になる内容を提示し、実用的な英語の習得に重点を置いていることが多い。しかし、保育士養成課程において、同様にすることが必ずしも必要ではないのではないかと疑問を持つ。それは、保育士養成課程に在籍する学生が求めている学習において、「英語」の優先順位がかなり低いことや英語に苦手意識を抱いていることが多いからである。また、本校に在籍するほとんど全ての学生が将来保育職に就きたいと希望しており、彼らは絵本には大変親しみと興味を抱いている。

この現実を踏まえ、本校の基礎科目「英語」の授業において、英語絵本を取り扱い、英語絵本の読み聞かせの実践を行った。そして、受講学生の英語に対する意識調査を行い、その内容と結果から見えてくる課題を探った上で、保育士養成課程における英語授業の役割を考えていく。本授業においては、英語絵本を英語教材としてのみ扱うのではなく、文化・表現として扱っている。英語絵本を取り扱った授業を通して、学生の英語への意識変容と英語の基礎技能の向上と共に絵本の読み聞かせの体験による保育技術に活かせる力を育むことを目指し、今後の保育士養成課程における基礎科目「英語」の授業の役割と課題を考える。

キーワード：英語絵本、読み聞かせ、英語の基礎技能、保育技術

Ⅰ はじめに

保育士養成課程における基礎科目「英語」の学習に関する学生の意識調査を行い、彼らの授業での変容をもとに、保育士養成課程での英語学習の役割を探る。本学における「英語」は基礎科目の位置づけで、１年次履修の通年２単位の科目である。他に２年次履修の「英語」以外の外国語を通年２単位履修する。保育士養成課程を設置している他大学では「英語」は外国語科目の位置付けで、１年次に「英語」を半期１単位を前期と後期に履修し、２年次に「英語」以外の外国語を半期１単位を前期と後期に履修するようにしているところが多いようである。

そこで、英語絵本の読み聞かせを通して、保育者養成のための題材について考える授業を目指した。英語に親しみ、外国のことばに興味をもつことで、視野を広げ、異文化への寛容な態度を身につけ、将来保育職に就いたときに、そのような態度を活かしていってほしいと願う。それに加えて、英語の基礎技能の向上として英語の文構造やことばの概念理解、英語特有の発音を意識できるような授業展開を目指し、英語の基礎技能の向上と同時に保育に役立つ内容となる授業が保育士養成課程における「英語」の授業の役割となり得るかを探る。

Ⅱ 先行研究

絵本の読み聞かせについての研究は数多く存在する。中でも、保育と関連しているものが多い。さらに、読み聞かせにおける人間関係の構築、乳幼児への影響や効果について書かれているものが多い。また、英語絵本における研究では、小学生を対象に英語絵本を教材として取り扱い、学習効果をねらうものや英語に慣れ親しむための指導法に関するものが多い。英語絵本を教育的目的のみで使用している例が多くみられる。これらの研究を①②③の３つに分類した。①は英語教育的視点で書かれているもの、②は保育場面での絵本の活用から見られる絵本の意義について書かれているもの、③は保育士養成校において学生の絵本の読み聞かせ体験の重要性について書かれているものである。

例えば①において、畑江（2012）は、英語絵本の活用により小学生のコミュニケーション能力の素地を育むことを目的とし、英語絵本を活用することによって、言語や文化の理解、コミュニケーションへの積極性、外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみが可能になると述べている。この例は、小学校学習指導要領における目的・目標に沿った指導をするために英語絵本を活用していると言える。また、吉田ら（2017）は、単元で取り上

げている表現が出てくる絵本を活用し、定型表現の定着を図ろうとしていた。この例は、英語絵本に出てくる英語表現と単元での定型表現が一致することから、絵本の場面を用いて定型表現を定着させようとする例である。②において、秋田・無藤（1996）は、読み聞かせにおける「空想・ふれあい」等の内生的意義と「文字・知識習得」等の外生的意義を踏まえた読み聞かせや読書環境について、また読み聞かせを行う親子の情緒的関係性の特徴について述べている。このような保育と絵本に関する論文や書籍は数多く見られる。③において、玉瀬（2012）が読み聞かせによって影響を受けるのは聞き手としての子どもたちだけでなく、読み手自身も読み聞かせ行動をとることによって何らかの影響を受けているのではないかと、幼児保育専攻学生を対象に授業中にクラスメートの前で絵本を読み聞かせるという経験をさせ、その結果、読み聞かせを経験することで学生の読み聞かせへの好意度が高まること、また読み聞かせの前後をとおして「声の大きさ・明瞭さ」「速さ（スピード）」「感情を込める」「会話の工夫・声を変える」という読み聞かせ技術についてその重要性が認識されたことを報告している。この例は、実践者の授業と似ているが、絵本は日本語の絵本である点が異なっている。

このように絵本と保育、英語絵本と英語教育が切り離せない存在であることは多くの様々な研究から理解できる。さらに、英語教育においては絵本を教材として扱っている例が大変多い。しかし、本稿では、読み聞かせの意義や効果について述べるものではなく、絵本を教材として扱いその効果や指導法を述べるものでもない。上記の先行研究に学びつつ、本研究においては、絵本が英語で書かれていても日本語で書かれていてもあるいは他の言語で書かれていても、文化・表現としての絵本という視点に重点をおいて「絵本」を取り扱っている。そして、「絵本」の中に出てくる「ことば」は私たちがつかっている「ことば」であるということを意識している。本稿で述べる英語の授業ではこのことを踏まえて英語絵本を扱っている。英語の授業において、この視点で英語の絵本を扱っている例は先行研究にはほとんど見られない。

Ⅲ 研究目的

保育士養成課程の基礎科目「英語」において、学生の英語の苦手意識の払拭と将来保育職に就いた時に実際に活かすことができる力をつけることを目的とする。

英語の苦手意識の払拭については、以下の授業内容により、絵本の読み聞かせ体験を通して英語特有の発音練習に積極的に取り組み、英語の文構造やことばの概念理解につなげる。この取り組みにより、英語の基礎技能の向上につながると仮定する。さらに、先行研究の②においても指摘されているように保育と絵本は切り離せない関係にあるということから、文化・表現としての絵本を取り扱うことが、子どものみならず大人である保育者にとっても広い視野と異文化への寛容な態度を養うことができ、同時に保育技術としての絵本の読み聞かせの慣れや技術向上も目指すことができると考える。

将来保育職に就きたいと希望している学生がほとんどである本学においては、絵本や絵本の読み聞かせに興味のある学生がかなり多く存在する。保育と言えば絵本と結びつける学生も多い。一方、英語絵本は英語教材だと認識している学生もかなり多く、絵本であっても敬遠していることが学生の振り返り文から伺うことができる。英語と聞くだけで苦手意識が働き、実際に親しんでいる日本語の絵本と切り離して英語絵本を捉えているのである。そこで、授業に文化・表現としての「絵本」の理解を促し、言語が日本語であっても英語であってもあるいは他の言語であっても絵本からの情報をどのように取り入れるかということに重点を置き、英語絵本を取り入れることにより、英語の基礎技能の向上とともに保育技術の向上にもつながるのではないかという仮説をたてた。それに対して、読み聞かせを通して、ことばの概念やことばの背景に興味を持てるようにする。また同時に日本語とは違う言語について考え、言語構造の違いなども考えられるようにする。そうすることで、ことば自体に興味をもち、英語学習にも進んで取り組めるのではないかと考えた。さらに、保育士養成課程において英語絵本の読み聞かせを体験することは読み聞かせ技術を高められるだけでなく、外国語である英語についての学びが深められ、視野を広げることができると考えられる。このことは、保育者としての資質向上に役立つはずである。そして、英語の基礎技能の向上として英語の文構造や英語特有の音の出し方にも意識が向き、発音の練習にも積極的に取り組むようになると考えられる。

以上のことから、保育士養成課程の基礎科目「英語」において、文化・表現としての「絵本」である英語絵本を取り扱い、英語の基礎技能の向上と保育技術の向上を目指し、英語絵本の読み聞かせに取り組んだ。

Ⅳ 研究方法

1 対象者

対象者は、2020 年度の本学乳児保育学科の通年必修基礎科目「英語」を受講した乳児保育学科 1 年生 70 名

である。授業アンケートを実施し、データの収集と分析を行った。アンケートでは、倫理的配慮を十分に行った上で実施し、アンケートの回答率は70人中56人で約8割であった。

2 授業内容

授業では、毎時間一冊英語絵本を紹介し、授業者が学生に読み聞かせをした。学生は聞こえてくる英語と絵を見ながらストーリーを想像していた。一度読み聞かせをした後、対話形式で絵本の内容理解を進める中で、学生は英単語や英語表現の意味を確認した。また英語表現の確認と同時に文構造や文法理解を深めるように促した。次に学生自身が、絵本の読み聞かせに挑戦した。彼らは、声に出して英文を読むことによって英語の音を出すには日常無意識に発している日本語の音の出し方と異なった筋肉を使ったり、口の中の舌の位置が異なることに気づいたりしながら英語特有の発音に慣れ、積極的に発音練習に取り組んだ。さらに、毎時間の授業の後半では、多読[1)]を行った。英語多読用図書であるOxford Reading Tree[2)]を使った自分のペースで読み進める取り組みである。学生が読み聞かせと対話形式で内容確認した方法を自分のペースで読み進める多読時にも活用できるようにした。

3 質問紙による授業アンケート

２の授業を受講した後に質問紙による授業アンケートの結果を分析することにより、学生の英語に対する意識の変化を看取した。そして、学生が絵本の読み聞かせ体験を通して英語特有の発音練習に積極的に取り組み、英語の文構造やことばの概念理解につながったか、また将来保育職に就いた時に実際に活かすことができる力をつけることに貢献できたかを看取した。

V 研究結果

1 アンケートの結果と分析

（1）第1回目の授業では、ほとんどの学生が「英語が苦手」「英語は嫌い」と述べていた。最終授業時のアンケートでは78.6％の学生が英語に対する意識の変化があったと答え、21.4%の学生は意識の変化はなかったと答えている。

（2）まず、意識の変化があった学生に対して具体的にどのような意識の変化があったかを質問した。「英文の構造が理解できてきた」が最も多く33.9%、次に「英文への抵抗感がなくなってきた」が32.1%、「英語の世界をもっと知りたくなった」が30.4%、「苦手意識がなくなってきた」が28.6％、と続いた。「すごく苦手だったけど少し興味が持てるようになった」という回答も少数あり、大半が苦手意識から解放されたということがわかった。他に「保育・幼児教育でも英語を活かせると思った」「元々英語が好きで今も変わらない」という回答やその他の中に「絵本が楽しかった」という回答もあった。

「英文の構造が理解できてきた」という回答が最も多かったのだが、絵本を使ったことにより、絵の助けを得た場面理解がそこで使われている簡単な英文の意味理解につながり、さらに頻繁に出てくる簡単な英文が同じパターンで繰り返されるところから共通点を見つけ、英文の構造理解につながったと考えられる。また、意味理解が促進されることにより、英文への抵抗感がなくなっていった、苦手意識がなくなっていったというところにつながったと考えられる。さらに、絵本の世界を味合うことにより、英語の文化的背景に目を向け、英語の世界への理解を深めることができ、そのことを保育・幼児教育

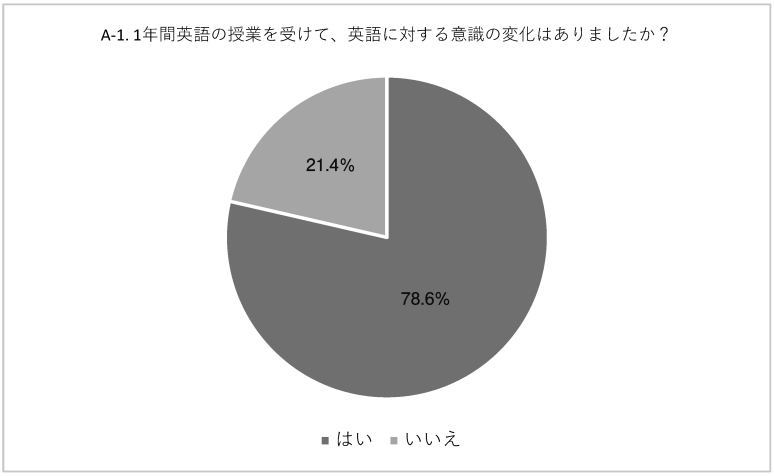

図1　授業アンケート1

に活かせることにも気づくきっかけとなった。このことは、英語絵本が単なる教材ではなく、文化・表現としての絵本の役割を果たしていると言えるのではないだろうか。

このように、英語絵本を使った授業により、英語への見方や意識が変わったことが顕著に現れたが、約２割の学生に意識の変化がなかった。そして、約２割の学生の意識の変化を感じられなかった原因を分析するという新たな課題が浮かびあがった。今回は意識の変化がなかった学生への質問を設けていなかったことを反省する。

（３）第１回目の授業で、「英語の発音をよくしよう」という目標を共有した。それは、英語と日本語の音の出し方が違うことを認識し、具体的な英語の音の出し方を学ぶことによって、英語らしく発音ができるようになる。そして英語らしく発音ができたことにより英語に親しみを覚え、英語を話せるようになろうというモチベーションが高まり、通じる英語を意識できるようになることを目指した。

その結果、「英語の発音がとてもよくなった」と感じた学生は 19.6%、「英語の発音がまあよくなった」と感じた学生は 71.4%、「英語の発音があまりよくならなかった」と感じた学生は 8.9% だった。ほとんどの学生が少しは発音がよくなったと感じており、英語と日本語の音の出し方が違うことを認識し、具体的な英語の音の出し方をあらかじめ講義したうえで、英語を声に出して言う、誰かに読み聞かせをするという行為が発音の向上につながったと言える。

今回の質問には入れていなかったが、英語の発音が上手くできない理由に、今までに英語の音の出し方を具体的に学んだことがない学生が多いことがわかった。今まではただ先生や CD などの音声を真似るだけの学習であったという。そこで、講義の中で、英語の音の出し方を具体的に説明し、練習をした結果、目に見えて発音がよくなったというのである。私たち日本人は、日頃使っている日本語の音を英語の音に代用して使っていること

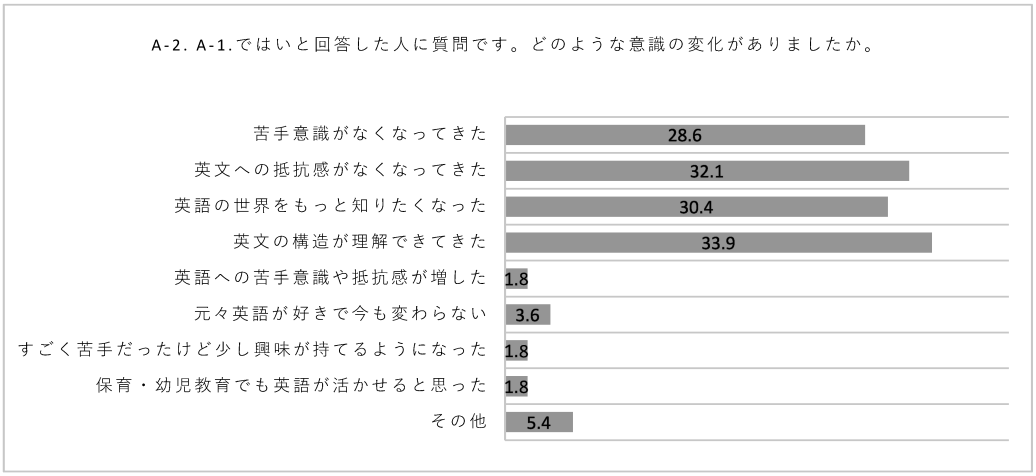

図２　授業アンケート２

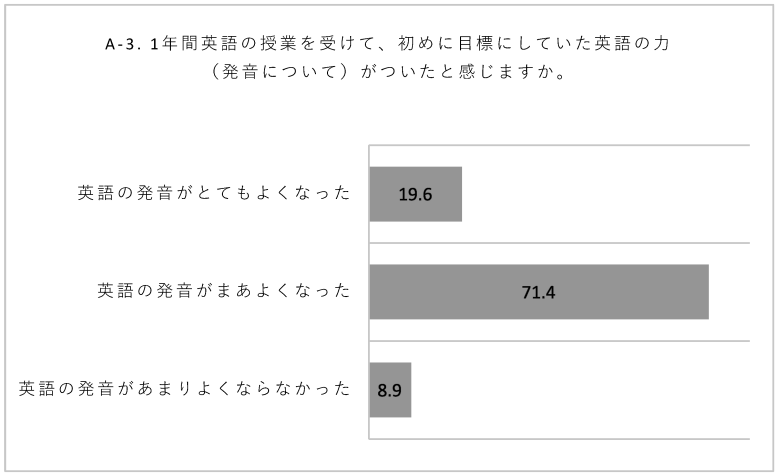

図３　授業アンケート３

が多い。それゆえにカタカナ的な発音だと言われるのであろう。まず、日本語と英語の音が別の種類のものであり、音の出し方も異なることを理解し、実際に口の周りの筋肉や舌の使い方を練習するようにした。その結果、約９割の学生が自分の英語の発音に手応えを感じ、今までより良くなったと感じていた。約１割の学生は手応えを感じることができなかったようであるが、練習量、要領が得られなかったなどの理由が考えられる。練習量は個人の意識の問題であると考えられるが、要領においては、新型コロナウィルス流行に伴うマスク着用のため、口の動きが見えないことやオンラインでの授業の時期があったことも考えられる。オンライン授業では動画のアップロードを活用し、できるだけ実際の口の動きや音声を届けられるように工夫をしていた。しかし、このことは今後の課題となる。

（４）第１回目の授業で、「英語を聞き取る力をあげよう」という目標を共有した。英語と日本語の音が違うことは上記で述べたが、英語をかたまりで捉える、つまり意味が分かって聞き取れる力をつけようとした。

その結果、「以前よりかなり聞き取れるようになった」という学生は5.4%、「以前よりまあまあ聞き取れるようになった」という学生が25%、「以前よりは聞き取れるようになった」という学生が48.2%、「あまり聞き取れるようにならなかった」という学生が19.6%、「全く聞き取れるようにならなかった」という学生が1.8%だった。約半数の学生が以前よりは聞き取れるようになったと回答し、さらに２割以上の学生がかなり手ごたえを感じていたようであった。しかし、その反面約２割の学生は手応えを感じずにいた。

意味のわかる簡単な英文が繰り返し使われている絵本の中の表現を、音声とともに理解できるようになっていく過程で、英語をかたまりで捉えるということの要領が理解できたと考えられる。また、何度も繰り返し聴くことにより、どこで間をおくかも理解でき、英文構造の理解にもつながっている。間の取り方や英文構造の理解は、聞き取りにおいて、瞬時の意味理解につながるものである。約２割の学生が、手応えを感じずにいたことは、聞く量と英文構造の理解における基礎が固まっていないことに原因があるのではないかと考えられる。

（５）第１回目の授業で、「文法理解を深めよう」という目標を共有した。学生の中には、中学校で学ぶ文法の理解が及んでいなくて苦手意識を抱き、「英語は嫌い」だと感じていた。また、そこまで理解できていないわけではないがあやふやな理解にとどまっているという学生も多く見うけられた。その理由として、英語を受験科目としてしかとらえておらず、丸暗記することが英語学習だと信じて学習してきているということがあげられる。正確に文構造を理解することで、ことばとしての英語を理解できることを体験してほしいと考えた。

その結果、「かなり理解できるようになった」という学生が16.1%、「以前よりまあまあ理解できるようになった」という学生が32.1%、「以前よりは理解できるようになった」という学生が30.4%、「あまり理解できるようにならなかった」という学生が21.4%、「全く理解できるようにならなかった」という学生は０％であった。全く理解できるようにならなかったという学生が一人もいなかったことはありがたいが、約２割の学生がまだ文構造の理解ができていないことが大きな課題となった。

授業で英語絵本を使ったことにより、絵の助けも手伝って意味がわかるということが、英語の文構造を意識することに抵抗なく入っていけたと考えられる。また使用されている英語の文構造もかなりシンプルなものであ

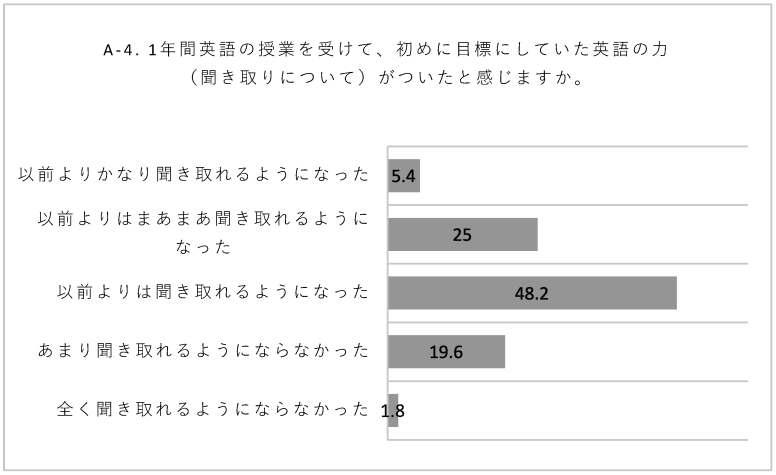

図４　授業アンケート４

るので、文構造が理解しやすい。さらに、以前に学習した時に混乱したままであったり、整理された状態で定着していなかったりしているということがわかってきた。混乱や整理できていない状態が解消されることにより、急速に理解が進んだと考えられる。

（6）第１回目の授業で、「英語の語彙数を増やす」という目標を共有した。英語の文構造理解以前に知っている英語の語彙数がかなり少ないという学生も少なくなかった。そこで、英語絵本の多読を通して語彙数を増やす試みをすることにした。

その結果、「かなり語彙数が増えた」という学生が10.7%、「以前に比べてまあまあ語彙数が増えた」という学生が 28.6%、「以前よりは語彙数が増えた」という学生が 28.6%、「あまり語彙数が増えなかった」という学生が 26.8％、「全く語彙数が増えなかった」という学生が 5.4% であった。語彙数が増えたと感じている学生が約７割、語彙数が増えていないと感じている学生が約３割という結果になった。これは、語彙数が増えていないと感じている学生が読んでいたレベルの多読用絵本が、もともと語彙数が少ないもので、同じ単語の出現率が高いものであるからだと考えられる。その反面、語彙数の多いレベルの多読用絵本には学生にとっての新出単語の出現率が高いのである。語彙数の少ないレベルの多読用絵本を読む学生への語彙数を増やす工夫を考える必要がある。

（7）第１回目の授業で、「英作文の力をつけよう」という目標を共有した。英作文を最も苦手とする学生がかなり多いからである。このことも今までの英語学習を丸暗記に頼っていたことが考えられ、英単語の意味も日本語の単一の意味にしか捉えておらず、日本語の語順と同様に英単語を当てはめて作文するという現象がみられた。そこで、英語の文構造の理解とともに、場面設定と伝えたい内容を考えることの指導も組み込むことにした。さらに、伝えたい内容の日本語を英語にする時に、発想の

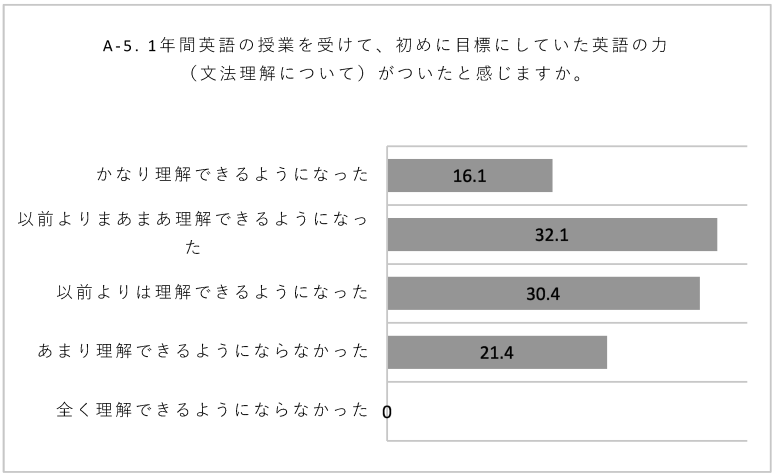

図５　授業アンケート５

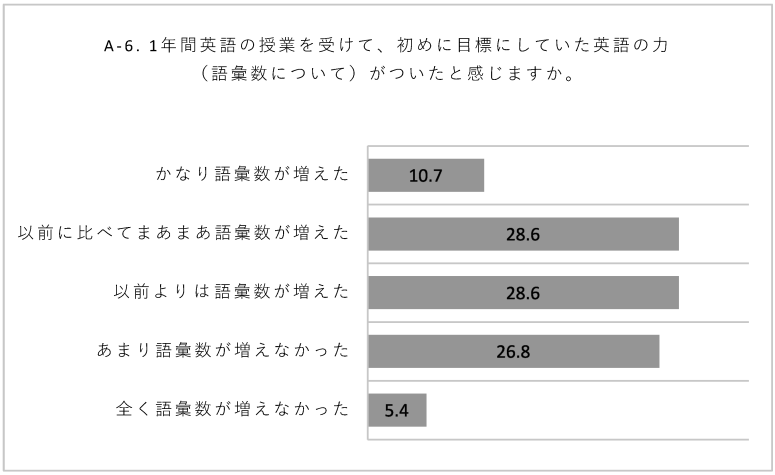

図６　授業アンケート６

転換が必要であることを伝えた。具体的にどのように転換するのかを多くの例を挙げて提示すると同時に、同じ作品である英語絵本と日本語の絵本の表現を比べることも役に立つことを伝えた。

その結果、「かなりできるようになった」という学生が 7.1%、「以前よりまあまあできるようになった」という学生が 33.9%、「以前よりはできるようになった」という学生が 35.7%、「あまりできるようにならなかった」という学生が 21.4%、「全くできるようにならなかった」という学生が 1.8% であった。やはりここでも約２割の学生が手応えを感じることができずにいることがわかった。できるようになったと手応えを感じた約８割の学生は、発想の転換ということを理解し、実行できたと考えられる。まず、伝えたい内容を簡単な英文で表現する練習をし、少しずつ表現の種類を増やしていった。また、発想の転換の要領を理解できた学生は、先にも述べたが、以前の英語の学習における混乱や整理ができていなかったことを解消できたことによりできるようになったものと考えられると同時に、同じ作品である英語絵本と日本語の絵本の表現を比べることを楽しんでいる姿が見られた。それに対し、約２割の学生が手応えを感じられなかった原因は、発想の転換ということの理解が進まず、日本語での文の作り方の概念から視点を変えることができなかったことが考えられる。発想の転換につながる柔軟な思考は英語に限ったところで有効なだけではなく、様々な場面で有効になることであるので、英作文の練習をしながら、柔軟な思考を育むことに貢献できると考えられる。

（８）第１回目の授業で、「英文を抵抗なく読めるようになろう」という目標を共有した。英文をみるとアレルギーを起こすほど英語が嫌いだという学生も少なくなかった。そこで、英文に慣れるためにも、英語絵本を活用することにした。また多読用英語絵本も活用し、できるだけ多くの英文に触れることも目標にした。

その結果、「英文を読むことに抵抗がなくかなり楽

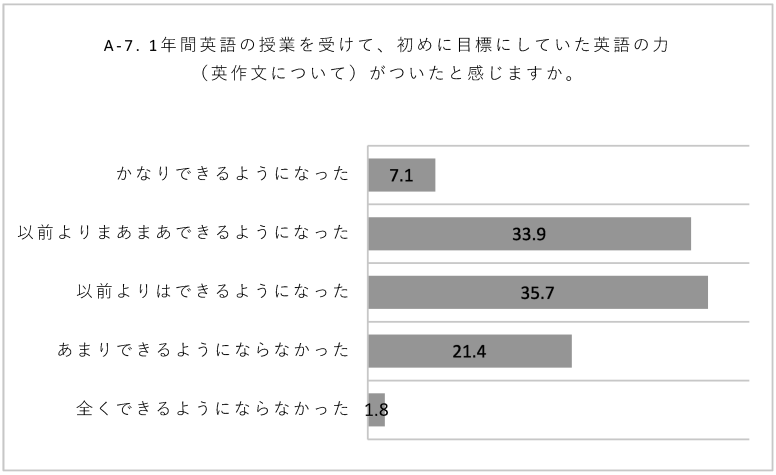

図７　授業アンケート７

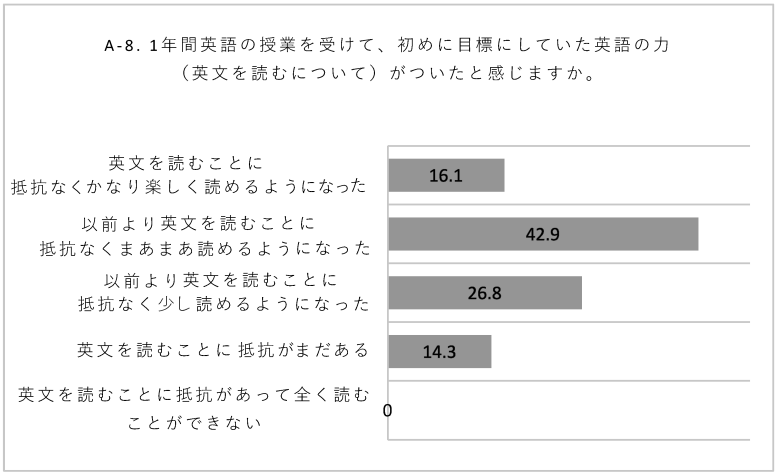

図８　授業アンケート８

しく読めるようになった」という学生が 16.1%、「以前より英文を読むことに抵抗なくまあまあ読めるようになった」という学生が 42.9%、「以前より英文を読むことに抵抗なく少し読めるようになった」という学生が 26.8%、「英文を読むことに抵抗がまだある」という学生が 14.3%、「英文を読むことに抵抗があって全く読むことができない」という学生は０％であった。数多く読める学生ほど英文を読むことに抵抗感がなく、楽しめるようになっていたようである。

「語彙を増やす」目標のところでも述べたが、学生の読むレベルの英文と比例し、語彙数の少ないレベルのものを読んだ学生は、内容的に物足りなさを感じていることが楽しさやモチベーションにつながりにくいと考えられる。

（９）英語の基礎能力の向上に加え、保育士養成課程で学ぶ学生にとって将来保育職に就いた時に活かせることを想定して英語絵本を授業で取り扱ってきた。

その結果、「英語に親しみやすくなった」という回答が 60.7%、「英語の絵本を通して視野が広がった」という回答が 42.9%、「英語の絵本を通して英語の単語やフレーズを覚えられた」という回答が 25%、「英文を読むことに慣れた」という回答が 33.9%、「絵本であっても英語なので抵抗感がある」という回答は０％であった。以上の結果から、保育士養成課程の基礎科目「英語」において英語絵本を取り扱い、英語絵本の読み聞かせを体験することは、英語の基礎技能の向上以上に将来保育現場で英語に触れることを楽しみながら言語活動をすることにつなげられるのではないかという結論に至った。言語が英語であっても日本語であってもあるいは他の言語であっても文化・表現としての「絵本」には変わりなく、そのことを感じながら、英語の授業に臨んでもらえたことは何よりの収穫である。

自由記述については、「楽しかった」「英語の絵本が面白かった」「英語に対する苦手意識が薄れた」「抵抗感なく英文を読めるようになってきた」「英語の絵本ももっと読みたくなった」「読み聞かせの練習になった」などという内容のものが多かった。

保育士養成課程に在籍する学生は、絵本に抵抗がないだけでなく、むしろ絵本が好きで親しんでいる。その部分において使われている言語が英語であっても絵本に対する感じ方は同じである。そして、自ら自分たちの体験した英語絵本を保育に活かしていきたいと感じていた。

２ アンケート調査のまとめ

アンケート調査の結果、約８割の学生が英語に対する意識の変化があったと回答した。その多くは、英語への苦手意識が減少し、英語の世界に興味を持てるようになったと答えている。残念ながら約２割の学生は意識の変化がなかったと回答している。

第１回目の授業で学生は、発音をよくしたい、リスニング力を強化したい、文法理解を深めたい、語彙を増やしたい、英作文の力をつけたい、英文読解の力をつけたいと目標を掲げており、最終授業で、全体的な情意面の変化として質問（２）を、それぞれの達成度についての質問（３）～（７）をした。これらの質問は英語の基礎技能における質問である。その結果、全体の情意面の変化としては、概ね目標達成の手応えを感じているという回答が得られた。しかし、約２割の学生に手応えが感じられていないという回答が得られている。その原因について（３）～（７）の回答と密接な関係があることが明らかとなった。質問（３）の発音に関して、発音の仕方（英語の音の出し方）を具体的に学ぶことにより、全く発音がよくならなかったという学生がほとんどいな

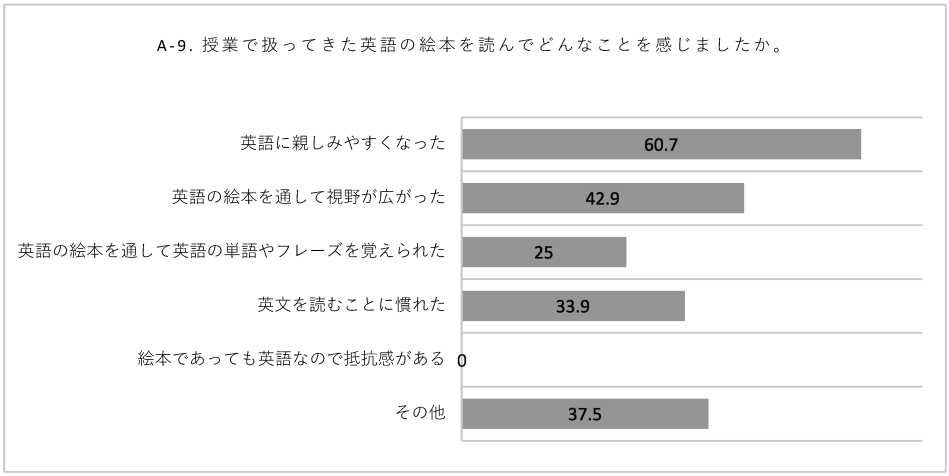

図９　授業アンケート９

かったことから、英語と日本語の音の出し方の違いや方法を理解し、実際に口の周りの筋肉や舌を動かす練習ができ、自身の発音の向上につながったと見られる。つまり、発音に関しては、文法理解や英作文力などと切り離して向上につなげることができると考えられる。ただし、今回の場合は、英単語や簡単な英文を読む時の発音に限られる。練習量や習得方法の要領が得られずに向上につながらなかったという学生も一部存在していることは今後の課題である。質問（4）のリスニングに関しては、約２割の学生がリスニング力の向上が見られなかったと回答していた。これは、文法理解と英作文の力の向上が見られなかったと回答した学生と関係が深く、文構造の理解が進んでいないことに原因があると考えられるのではないだろうか。英語における主要品詞（主語、動詞、目的語、補語など）の語順の理解ができていないということである。この部分が理解できていないと、聞こえてくる英語は単なる音でしかなくなっていると考えられる。つまり、意味を持つことばとして聞き取ることができていないということである。質問（6）の語彙数に関して、約３割の学生が理解する語彙数を増やせていなかった。語彙数を増やすことについては、母語の語彙数と深く関係するのではないかと考えられる。英語の基礎技能を向上させるためには、文の仕組みを理解する力と語彙力が必要とされることがわかる。また、語彙は単に単語の意味だけを暗記して覚えるものではない。単語の背景や使われている文脈理解も必要である。母語の語彙力も活かしながら英語の語彙は増えていくものであると考えられる。このことから、語彙数を増やすということは、短時間でできる技ではないことがわかる。質問（5）の文法理解については、絵本の絵の助けを得て場面理解ができることから、英文の構造理解につながったと考えられる。つまり、日本語における主語や述語の部分にあたる文の主要部分に焦点を当てることができるようになってきたのである。質問（7）の英作文については、同じ作品の英語絵本と日本語の絵本の表現を知ることにより、発想の転換のコツをつかめるようになったと考えられる。質問（8）の英文を抵抗なく読むことについて、抵抗がある学生はやはり２割弱残ってはいるが、全く読めないという学生が０％だったことから、英語絵本の読み聞かせや個人のレベルに応じて自分のペースで読み進める多読を通して、英語に親しみ、最大の目標としていた苦手意識をほぼ克服することができたと見られる。それは、自由記述でも苦手意識が薄れた、楽しく学習できたという内容が多く見られたことからもわかる。

これらの回答から、英語絵本に興味を持ち、親しみを持つことによって英語学習へ積極的に取り組むことにつながったことがわかる。絵本の内容を理解しようとする態度が英単語や英語表現を理解することへつながり、学習態度の形成を確立できたと考えられる。また学習態度の形成過程において、将来保育職に就くことを踏まえて保育技術に活かせることも学べたのではないかと考えられる。

Ⅵ 今後の課題と展望

アンケート調査の分析とまとめの中でも述べてきたように、授業で英語絵本を取り扱うことにより、学生の「英語」に対する抵抗感や苦手意識の払拭につながったと考えられる。また、保育士養成課程に在籍し、将来保育職に就くことを目指している学生にとって、絵本の存在がモチベーションアップに効果的であると概ね言えるだろう。しかし、約２割の学生が英語に対する抵抗感や苦手意識の払拭につながらず、意識の変化が見られなかったことは今後の課題として残った。そして、これらの英語の基礎技能の向上に対する学生の情意面の変化は得られたが、客観的にそれぞれの技能を測るデータが必要であることも今後の課題となった。また、リスニングと文構造理解の関係、聞く量と英文構造の理解の定着、英語の語彙数と母語の語彙数の関係、語彙数の少ないレベルの多読用絵本を読む学生への語彙数を増やす工夫等を具体的に示すことも課題とする。また、学生の自由記述部分や、毎授業時の振り返り文には短絡的な表現が目立つことと、具体的な記述を引き出したいという思いから、具体的な記述を引き出すための設問に工夫をすることも課題とする。

学生の情意面の変化に伴い、英語の基礎技能を測る客観的なデータを示すことが今後の課題とし、学生が英語絵本を通して、英語の基礎技能の向上とともに、保育技術の向上にもつながる授業展開を構築することが、保育士養成課程における「英語」の授業の役割であると考える。

Ⅶ おわりに

保育士養成課程における基礎科目「英語」の授業において、英語絵本の読み聞かせを通して、英語のプロソディー[3)]の基礎を培い、英語の基礎技能の強化として英語の文構造やことばの背景にももっと意識を向け、英語理解を深めていけるようにすることも大切だと考えるが、保育士養成課程ということを鑑みて、学生が保育に活かせる内容であることと、何より学生自身の豊かなことばの学びや視野を広げ寛容な態度を身につけられるこ

とを目指すことも大切だと考える。このことは、読み聞かせが聞き手に伝わるように読むという基本を英語絵本でも体験することができ、保育技術の一つでもある読み聞かせ技術の向上と同時に、本授業内容について学生同士が気づきなどを伝え合う活動が保育技術に活かせる体験として、保育現場や日常生活において必要なコミュニケーション能力[4)]を育む効果も期待できる。

保育士養成課程の基礎科目「英語」において、英語学習を通して培った知識をもとにその知識をどのように保育に活かしていくかを学生同士で学び合い、意見し合うことがコミュニケーション能力を育むことにつながるであろう。豊かなことばの学び、広い視野を持つ、寛容な態度を身につけるということは、保育者としての資質につながるはずである。さらに、ことばを獲得することは単語の丸暗記ではないことを学ぶことができ、子どものことばの獲得について興味を持ち、学びを深めることもできると考える。保育士養成課程における基礎科目である「英語」の授業において、保育とは切り離すことができない絵本に注目し、文化・表現としての英語絵本の活用により、学生の英語に対する抵抗感や苦手意識を払拭し、英語の基礎技能の向上だけでなく、保育者としての資質を育むことや保育に役立つ役割を果たせるのではないかと考える。将来保育職に就きたいと望んでいる学生にとって意味のある英語学習につながり、保育に活かせる内容であることが求められる。

注

1）多読とは、文章を分析しないで（単語をその都度調べたり、文構造を考えたりしないで）大意を把握する読書法である。

2）Oxford Reading Tree は、多読用英語絵本の一つのシリーズで、イギリスの約 80％以上の小学校で採用されている「国語」の教科書でもある。親しみやすい登場人物がくり広げるユーモアのある短いお話がたくさん集められている。

3）プロソディーとは、言語学における韻律であり、英語特有の音・リズム・イントネーション・アクセント・間の取り方などをいう。

4）「コミュニケーション能力（communicative competence）」とは、ハイムズ（Dell Hymes）が 1960 年代半ばに提唱した概念であり、潜在的に可能な言語についての知識・運用力（systemic potential）、状況に応じた適切な言葉についての知識と適切な言葉を使う力（appropriateness）、実際によく発話される言語についての知識・運用力（probability）、実際に実現されるかどうかについての知識等（feasibility）の 4 つの要素が含まれる力である。この 4 つの要素は、1980 年代に入り、カネールとスウェイン（Michael Canale and Merrill Swain）により文法的能力、社会言語学的能力、談話能力、方略的能力の 4 点にまとめられた。このことを踏まえ、鳥飼（2008）は、コミュニケーションを実際に行う上で必要になる能力の基盤として「言語の知識」だけでなく、「知識体系全般」が主要な要素となっていると述べている。また、TESOL 2014 で講演している Diane Larsen-Freeman は、英語の構造理解は重要な意味を成し、言語をコミュニケーションの文脈に適応させるための重要な資源であることを述べている。

資料（授業で使用した英語絵本リスト）

1）Ed Vere. (2007). *BANANA!*. Puffin
2）Bill Martin Jr. / Eric Carle. (1996). *Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?*. Puffin
3）Rod Campbell. (1982). *Dear Zoo*. Macmillan
4）Pat Hutchins. (1971). *Rosie's Walk*. Aladdin
5）Margaret Wise Brown. (1991). *GOODNIGHT MOON*. HarperCollins
6）Jez Alborough. (2009). *HUG*. Candlewick
7）Todd Parr. (2009). *IT' OKAY TO BE DIFFERENT*. Scholastic
8）Simms Taback. (1999). *Joseph Had a Little Overcoat*. Viking Books
9）Nick Sharratt. (2006). *Ketchup On Your Cornflakes?*. Scholastic
10）Antoinette Portis. (2006). *NOT A BOX*. HarperCollins
11）Eric Carle. (1969). *THE VERY HUNGRY CATERPILLAR*. Puffin
12）Ruth Krauss. (1989). *THE HAPPY DAY*. HarperCollins
13）George Shannon. (1999). *TOMORROW'S ALPHABET*. Greenwillow Books
14）Roderick Hunt. (2009 ～). Oxford Reading Tree. OXFORD UNIVERSITY PRESS

文献

1）秋田喜代美・無藤隆（1996）．幼児への読み聞かせに対する母親の考えと読書環境に関する行動の検討　教育心理学研究，44 (1)，109-120.
2）安藤則夫・長谷川修治（2019）．英語教育における学習スタイルと適合性：英語授業に対する大学生の適合感と好感度、効力感に基づく検討　上草学園大学研究紀要 11，17-28.
3）Hall，Joan Kelly（2011）. Teaching and Researching: Language and Culture（Applied Linguistics in Action）Routledge 110-131.
4）畑江美佳（2012）．小学校外国語活動における『英語絵本』の活用－コミュニケーション能力の素地を育むために－四国英語教育学会紀要 32，17-28.
5）加茂葉子・藤原愛（2013）．保育士養成課程の学生に対する英語学習に関する追跡調査：ESP（English for Specific Purposes）アプローチの視点から　育英短期大学研究紀要 30，81-94.
6）カレイラ松崎順子（2009）．保育士養成課程の学生に対する英語学習に関する調査－ English for Specific Purposes（ESP）の視点から－　JALT Journal 31，2，205-224.
7）舩田まなみ・執行智子・カレイラ松崎順子（2019）．保育

士養成課程における学生の自主的な学びに関する実践報告：子どもの英語の歌を用いた活動　東京未来大学研究紀要 13，129-139.
8）昆布孝子（2013）．教材として英語絵本を活用－幼児教育学科における英語演習の授業－　奈良文化女子短期大学紀要 40，137-146.
9）小玉容子・キッド ダスティン（2014）．英語で読書：「絵本の読み聞かせに挑戦」と学生による "Kids' English" の実践しまね地域共生センター紀要 1，47-52.
10）三森ゆりか（2002）．絵本で育てる情報分析力－論理的に考える力を引き出す　一声社
11）玉瀬友美（2012）．「保育」の教育における読み聞かせ経験－その教育心理学的研究　風間書房
12）TESOL 2014. International Convention& English Language Expo 基調講演動画 https://www.tesol.org/convention2014/featured-speakers/diane-larsen-freeman-keynote-video（2021.8.31）
参考：Complex Systems and Applied Linguistics（Oxford Applied Linguistics）Oxford Univ. Press 2008
13）鳥飼玖美子（2008）．真のコミュニケーション能力を培う為に－母語と外国語を繋ぐ言語教育－　学術の動向 2008.1，56-58.
14）リーパー・すみ子（2003）．えほんで楽しむ英語の世界　一声社
15）吉村美幸・吉田朋世・今井信義・福島安希子（2017）．小学校における英語絵本の読み聞かせの研究－担任が無理なく取り組める手法を探る－　福井県教育研究所研究紀要 122，122-133.

付記

本論文に関して、開示すべき利益相反事項はない。

【付録】

保育士養成課程における「英語」授業アンケート		
－より良い授業にするために－ アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。 このアンケートは、倫理的配慮に基づき、得られた情報を授業研究と授業改善の目的以外に使用することはありません。また、アンケートは無記名であり、結果は統計的に処理され、記述内容は個人が特定される形で公表されることはありません。またアンケート調査への協力は自由意志であり、アンケートの提出により同意を得たものとします。アンケート調査に協力いただけない場合でも、成績等への不利益が生じることはありません。研究にご協力いただいた後も、いつでも文書により撤回できるようにし、撤回後も不利益を受けることはありません。回収したアンケートは、研究終了後、適切な方法で廃棄処理いたします。調査結果は、研究報告または論文で公表する予定です。		
A-1	１年間英語の授業を受けて、英語に対する意識の変化はありましたか。	はい・いいえ
A-2	A-１ではいと回答した人に質問です。どのような意識の変化がありましたか。	苦手意識がなくなってきた 英文への抵抗感がなくなってきた 英語の世界をもっと知りたくなった 英文の構造が理解できてきた 英語への苦手意識や抵抗感が増した その他（自由記述）
A-3	１年間英語の授業を受けて、初めに目標にしていた英語の力（発音について）がついたと感じますか。	変化なし～よくなった（３段階）
A-4	１年間英語の授業を受けて、初めに目標にしていた英語の力（聞き取りについて）がついたと感じますか。	変化なし～よくなった（３段階）
A-5	１年間英語の授業を受けて、初めに目標にしていた英語の力（文法理解について）がついたと感じますか。	変化なし～できるようになった（５段階）
A-6	１年間英語の授業を受けて、初めに目標にしていた英語の力（語彙数について）がついたと感じますか。	変化なし～増えた（５段階）
A-7	１年間英語の授業を受けて、初めに目標にしていた英語の力（英作文について）がついたと感じますか。	変化なし～できるようになった（５段階）

A-8	１年間英語の授業を受けて、初めに目標にしていた英語の力（英文を読むについて）がついたと感じますか。	変化なし～理解して読めるようになった（５段階）
A-9	授業で扱ってきた英語の絵本を読んでどんなことを感じましたか。	英語に親しみやすくなった 英語の絵本を通して視野が広がった 英語の絵本を通して英語のフレーズを覚えることができた 英文を読むことに慣れた 英語の世界を楽しむことができた 絵本であっても英語なので抵抗感があった その他（自由記述）
A-10	１年間の英語の授業の感想を自由に書いてください。	自由記述

Role of Basic English Lessons in a Childcare Training Course

: Based on a Survey of Students Attitude Toward Learning English

Takami Sugimoto

Osaka University of Comprehensive Children Education

The purpose of this study is to examine a role of basic English lessons in a childcare training course. In general, college students learn practical English based on their past learning at elementary or junior and high school. However, I wonder that it may not always be necessary to do the same in a childcare training course. This is because most of the students in this course aren't good at English, and they don't give a priority to English. In addition, almost all the students in this course want to get a childcare job in the future, and they have friendly feeling with and interest in picture books very much.

Based on this observation, I used English picture books in my basic English class of our school and the students read aloud English picture books many times. They were pleased very much when they worked on reading aloud time and they put up their motivation to English lessons. I usually tell them that English picture books are treated not only as teaching materials but also as examples of culture and daily expressions like child cultural assets.

As a result, students are improving their basic English skills and also childcare skills through the experience of reading aloud at the same time. I consider that the role and the challenges of basic English lessons in this course respond effectively to the needs of the future course. Alterations of the students' consciousness in this study can have a good influence on basic English lessons in a childcare training course.

Key words：English picture books, story-telling, basic English skills, childcare skills